11．鋳造冠の気管支迷入

川中　政治
（川中歯科医院）

今回，全部鋳造冠（⌉7ＦＣＫ）を左気管支へ迷入，精密検査の途中でＦＣＫが移動し，食道，そして胃へと移動した経験を報告した。

患者は75歳男性で全身疾患は特になし。主訴は右の冠が痛い，口腔内は⌉7膿瘍を形成，動揺（＋）打診（＋）残存歯26本。通常どおり処置し，歯冠修復のため保持付ＦＣＫ（咬合高径が緊密のため）を作製，試適時に見失い，ひどく咳き込む事態となった。直ちに隣接内科医院へ行き，検査を受け，内科医の診断は，胃の手前，食道に引っかかっているということであった。バリウムをお願いしたところ，ＦＣＫは気管支にあることが判明した。

考察，

1）撮影を依頼できる医院，病院を日頃から心掛けておくこと。

2）歯科医師自身が迷入部位を確認すること。
　特に高齢者の場合，咳き込むことなく気管支の中まで入り込む場合がある。

3）患者および家族とコミュニケーションをしっかりとること。

4）保険加入時，保険会社等にも連絡すること。